

イ 実践事例②B校（第2学年）



《9月》

学級の児童は、どのステップに当てはまるかな？ 確かめてみよう！
さらに、ステップアップするための手立ては…？

B教諭

※「授業改善ステップ表」と「手立て一覧表」は、トップページからダウンロードできます。

「授業改善ステップ表」

「手立て一覧表」

★ 本単元における授業改善の流れ（単元前）

授業改善の流れ	B教諭の意識	「授業改善ステップ表」と「手立て一覧表」の活用																				
<p>(1)</p> <div style="background-color: #f9e79f; padding: 10px; border: 1px solid #ccc; margin: 5px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">児童の実態把握</p> </div>	<p>何のための学習か、児童は分かっているか、児童は分かっているか…</p> <p>低学年だけど、互いのよさには気付いている…</p> <p>課題を解決するために何をすべきか児童は考えていない。</p> <p>学んだことを、次の学習に生かそうとしていない…</p>	<p>各観点のチェック欄の整理（B教諭）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>ステップ①</th> <th>ステップ②</th> <th>ステップ③</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td></td> <td>✓</td> <td></td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>✓</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>C</td> <td></td> <td>✓</td> <td></td> </tr> <tr> <td>D</td> <td></td> <td>✓</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		ステップ①	ステップ②	ステップ③	A		✓		B	✓			C		✓		D		✓	
	ステップ①	ステップ②	ステップ③																			
A		✓																				
B	✓																					
C		✓																				
D		✓																				
<p>(2)</p> <div style="background-color: #f9e79f; padding: 10px; border: 1px solid #ccc; margin: 5px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">授業の改善点と目指す児童の姿の洗い出し</p> </div>	<p>今のステップと、次の段階のステップを見比べると、今の授業の改善点分かるよ。目指す児童の姿が具体的に設定できるね。</p> <p>低学年だけどCはステップ③に挑戦させたいな。</p>	<p>各観点で目指す児童の姿（次のステップ）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>③</td> <td>身に付けるべき力を意識して単元のゴールを見通す</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>②</td> <td>課題を解決するための方策や道筋について考える</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>③</td> <td>対話を通して、考えをより確かなものにする</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>③</td> <td>学習したことを、次の学びに生かそうとする</td> </tr> </tbody> </table>	A	③	身に付けるべき力を意識して単元のゴールを見通す	B	②	課題を解決するための方策や道筋について考える	C	③	対話を通して、考えをより確かなものにする	D	③	学習したことを、次の学びに生かそうとする								
A	③	身に付けるべき力を意識して単元のゴールを見通す																				
B	②	課題を解決するための方策や道筋について考える																				
C	③	対話を通して、考えをより確かなものにする																				
D	③	学習したことを、次の学びに生かそうとする																				
<p>(3)</p> <div style="background-color: #f9e79f; padding: 10px; border: 1px solid #ccc; margin: 5px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">手立てを取り入れた授業実践（単元）</p> </div>	<p>「手立て一覧表」を見ると、ステップアップのための手立てが、いくつか挙げられているけど、今回はこの手立てを取り入れてみよう！</p>	<p>取り入れる手立ての決定</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>k'</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>h'、l</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>s'</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>w、w'</td> </tr> </tbody> </table> <p>単元前に d、単元後に z の手立ても使えそう…</p>	A	k'	B	h'、l	C	s'	D	w、w'												
A	k'																					
B	h'、l																					
C	s'																					
D	w、w'																					

手立てを取り入れた授業の実際は、次頁から見るすることができます。

第2学年

「グループ会議の達人になろう」

～互いの考えをよく聞いて、話題に沿って話し合い、グループの考えをまとめる～

★本単元で育成を目指す資質・能力

○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。

[知識及び技能] (1)ア

○互いの考えをよく聞いて、話題に沿って話し合い、グループの考えをまとめること。

[思考力、判断力、表現力等] A (1) オ

★学習過程（話すこと・聞くこと）

話題の設定 情報の収集 内容の検討	日常生活の中から話題を決め、集めた材料から必要な事項を選んだり、その内容を検討したりすること。
話し合いの進め方の検討 考えの形成 共有(話し合うこと)	進行を意識して話し合い、互いの意見や考えなどを関わらせながら、考えをまとめたり広げたりすること。

★単元計画

学習過程	時	主な学習活動	指導上の留意点 (記号：手立て一覧表)	
単元前			・指導事項を効果的に身に付けさせるため遠足に合わせて単元を入れ替える (d)。	
一次(つかむ) 二次(深める)	話題の設定、情報の収集、内容の検討 話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有(話し合うこと)	1	<ul style="list-style-type: none"> ○遠足のためにいくつか話し合っ て決めることがあることを知る。 ○学習課題を考える。 ○学習計画を立てる。 	・児童が主体的に学習を進められるように、児童の発言を取り上げながら学習計画を立て、学習のゴールまでの見通しを持たせる (k')。
		2	○「上手に話し合うポイント」はどのようなことか、教科書等の例を基に考える。	・「上手に話し合う」ポイントについては模範的な話し合いの例と改善の余地が残る例を示し、比較して考えさせる (h')。
		3	○「上手に話し合うポイント」の①②③を一つずつ意識して、グループで話し合う練習を行う。	・本時のめあてを確認し、意欲を高めるために、ふさわしい議題を児童に選択させる (l)。
		4	○話し合いを録音し、再生して聞き、「上手に話し合うポイント」を守れているか、チェックする。	・レコーダーを用いて、話し合いを録音・再生させ、「上手に話し合うポイント」を守れているかどうかの視点で振り返りをする際に使用させる (s')。
		5	○「上手に話し合うポイント」を守ることのよさについて振り返る。	・「上手に話し合うポイント」を守ることのよさについて、振り返らせ、身に付いた力を自覚させる (w)。
		6	○「上手に話し合うポイント」の全てを意識して話し合う。	

三次 (まとめ)	共有 ↓	7 ○単元を振り返り、話し合いをして気付いたことや、話し合っ たと思ったことを伝え合 う。	・自分が身に付けた力や、一 緒に話し合った友達のよい ところなどを伝え合わせ、 本単元で身に付いた力を自 覚させる (w')。
単元後		○グループで話し合った結 果を持ち寄り、学級活動の 時間にしおり作りを行う。	・単元で習得した「上手に 話し合うポイント」の技を 用いて、遠足のしおりを作 らせる (z)。

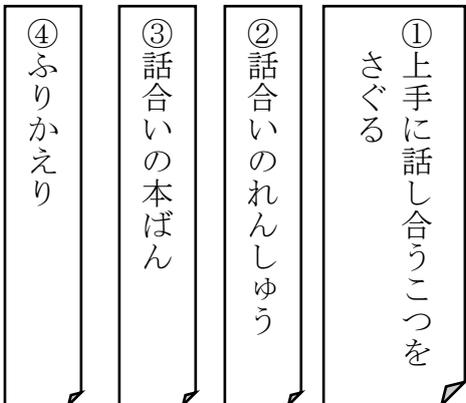
「手立て一覧表」に挙げられた手立ては、単元の一次、二次、三次のどの過程で取り入れるべきかも示してあるから、単元計画を立てるときのヒントになるね。



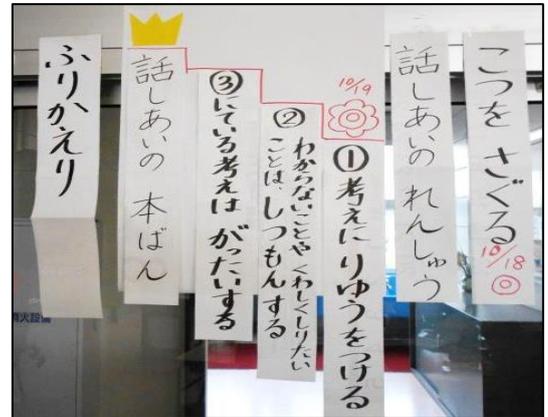
第二次
②/7

B 「上手に話し合うポイント」はどのようなことか、教科書などの例を基に考える。

h' モデルを提示し、「上手に話し合うポイント」を探らせる。



資料2 児童と立てた最初の学習計画



資料3 児童と共に見直した学習計画

資料4 話し合いの範例・改善の余地が残る例の揭示

「話し合いのれんしゅう」のときは、どんなことができるようになればいいのかな？
上手な話し合いをするためのコツを見付けましょう。



きちんと理由を付けて話すと、考えていることがきちんと相手に伝わるのが分かります。

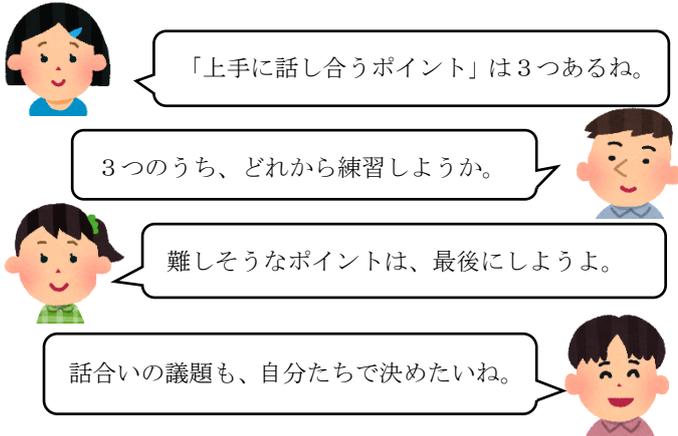


それでも分からないときは、質問をすると、教えてもらえます。



考えが似ている意見は、1つにまとめることができるって、初めて知ったよ。これができるようになったら、話し合いがうまくいくと思います。

じゃあ、「上手に話し合うポイント」として、
①考えに理由を付ける
②分からないときは質問する。
③似ている考えは合体する。
の3つの練習を学習計画に入れたらいいね。

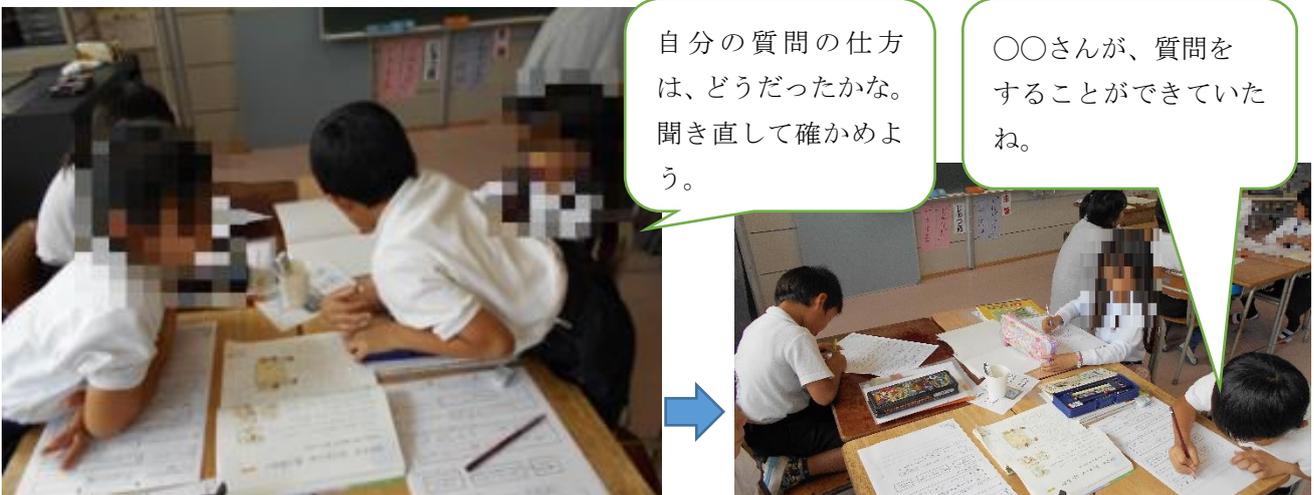


話し合いの模範となる例と改善の余地が残る例を対比的に提示し（前頁資料4）、「上手に話し合うポイント」を探らせました。低学年の児童にとって、対比することでよさを見付ける活動は有効で、児童から出た意見を基にして、前頁資料3のように学習課題を見直すことができました。また、学習計画を階段状に掲示したことで、付けたい力を1つずつ身に付けていくイメージを児童につかませることができました。

第二次
③④⑤⑥
／7

C 録音した話し合いを再生して聞き、「上手に話し合うポイント」が守れているか、チェックする。

s' 話し合いの中で「上手に話し合うポイント」を守れたかどうかを振り返る際の手立てとして、録音機器を使用し、振り返りの焦点化を図る。



資料5 録音機器を再生して話し合いを振り返り、ワークシートに記入する児童

音声言語はその場で消えていくものなので、録音機器を使って、グループごとに話し合いの様子を録音しました。話し合いの後、再生をさせ、本時のめあてとなる「上手に話し合うポイント」（理由を付けて話すなど）を守れているかどうかという視点を持って聞かせ、振り返りをさせました（資料5）。グループの友達の話し方はもちろん、自分自身がどのような話し方をしているか客観的に捉え直し、改善しようとする姿が見られました。

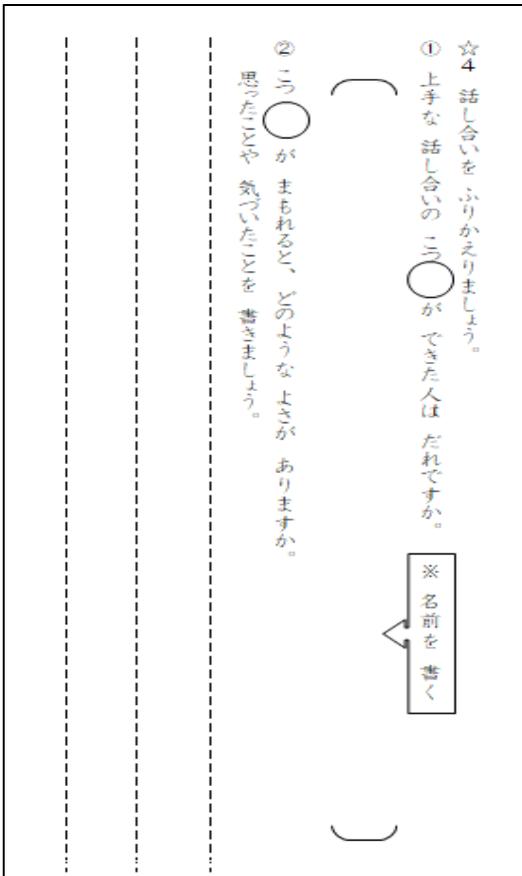
第二次

③④⑤⑥

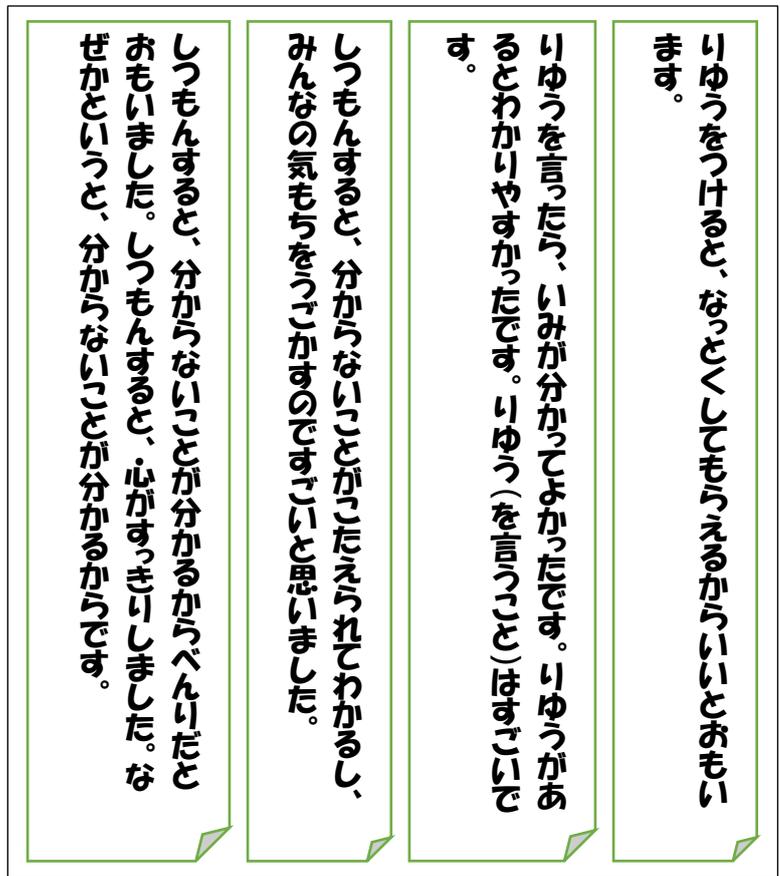
／7

D 「上手に話し合うポイント」を守ることのよさについて、振り返りをする。

w' 「上手に話し合うポイント」を守ることのよさという視点を与えて学習を振り返らせることで、自分の変容に気付かせ、身に付いた力を自覚させる。



資料6 ワークシートの振り返りの部分



資料7 児童の振り返り記入例



資料8 単元の振り返りを発表する児童

（似ている意見を）合体すると、すっきりするからいいと思います。
合体すると、ごちゃごちゃならないで、覚えることが少なくなるから便利だと思いました。

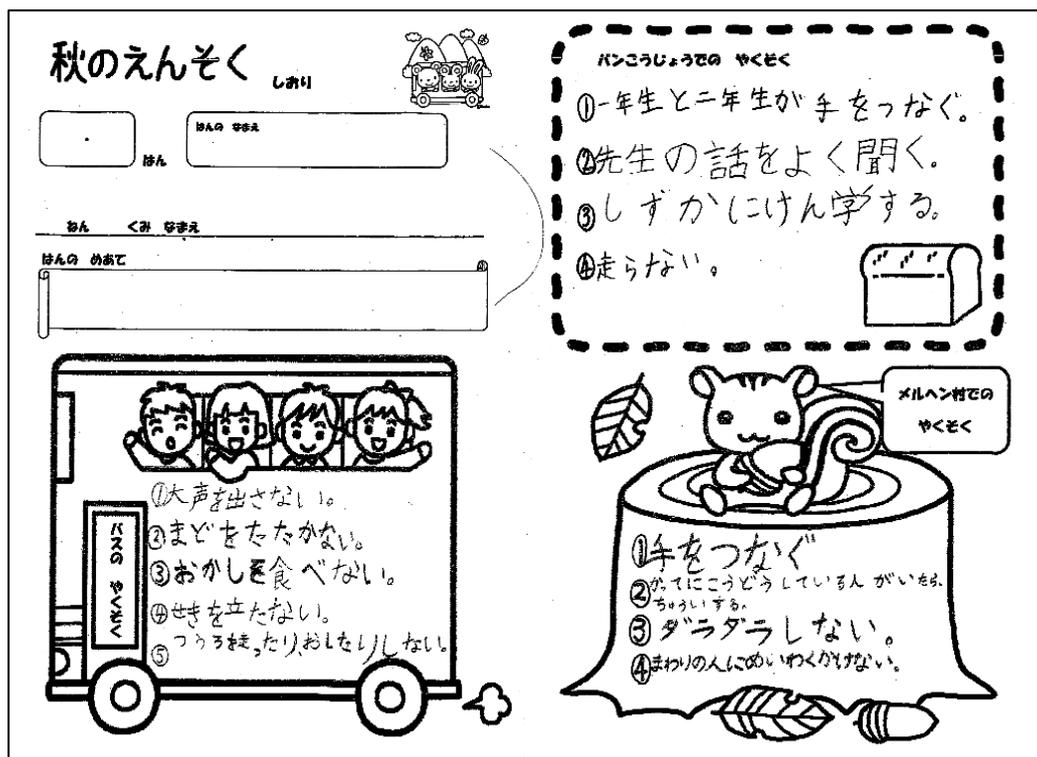
振り返る項目を「①上手な話し合いのこつができた人はだれですか」、「②こつがまもれると、どのようなよさがありますか」として、グループで再生したものを確認しながら振り返りをさせ（資料6、7）、全体で共有する時間を設けました。1時間の終わりに、「『上手に話し合うポイント』を守れたかどうか、◎○△で振り返ろう」と指示した時よりも、振り返る内容が焦点化され、具体的に振り返ることができました（資料8）。

単元後

2 単元で習得した「上手に話し合うポイント」の技を用いて、遠足のしおりを作らせる。

単元の学習後、「遠足実行委員」を集め、遠足のしおりの作成をしました。各学級、各グループで出た様々な約束を持ち寄り、似ている考えは1つにまとめて、しおりに書くことができました（資料9）。

また、日常生活の中でも、「似ている考えだから合体しよう」などの声が、児童から自然と出るようになりました。



資料9 単元後に児童が作成した遠足のしおりの一部

★本単元における授業改善の流れ（単元後）

授業改善の流れ	B 教諭の意識	「授業改善ステップ表」と「手立て一覧表」の活用																				
<p>(4)</p> <div style="background-color: #f9e79f; padding: 10px; text-align: center; margin-bottom: 20px;"> <p>取り入れた 手立ての 検討</p> </div>	<p>○話し合いの模範となる例と、改善の余地が残る対照的な例を提示したことで、児童自ら「上手に話し合うポイント」を3点見付けることができた（h'）。</p> <p>○話し合いの順序や話題の選定についても、教師側から提示するのではなく、児童に話し合って決定させた。これにより、単元のゴールである本番の話し合いに向けて、前のめりになって考える姿が見られた（l）。こうした学びの過程も、学習したことの意義の実感につながったと考えられる。</p> <p>○1 単位時間ごとの振り返りにおいて、「上手に話し合うポイント」を守ることのよさについて記述させたことで、単元の振り返りでは、学んだことの意義を実感する言葉や自分の変容を自覚する言葉が見られた（w、w'）。</p> <p>●言語活動として、「グループ会ぎの達人になろう」と設定したが、低学年の児童にとってはやや抽象的であった。単元後、学級活動として遠足のしおり（前頁資料9）を作成する際に、同学年の他学級の児童と、本単元で学習した話し合いが自然となされている様子が見られた。しおり作りを言語活動とするのも有効であったと感じた（h'）。</p> <p>●学習課題に「思考操作」がなかったため、学習のゴールに向かって、どのような学習活動を展開していくのか、具体的なイメージを児童に持たせることができなかった（k'）。</p> <div style="margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #e6f2ff;"> <p>観点Bは、一気に①から③へとステップアップできた！ 観点Dもステップアップ！ 観点AとCは、単元前と変わっていないかな。</p> </div> </div>	<p>単元前の児童（✓）と本単元での児童（◆）</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>ステップ①</th> <th>ステップ②</th> <th>ステップ③</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td></td> <td>✓◆</td> <td></td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>✓</td> <td></td> <td>◆</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td></td> <td>✓◆</td> <td></td> </tr> <tr> <td>D</td> <td></td> <td>✓</td> <td>◆</td> </tr> </tbody> </table>		ステップ①	ステップ②	ステップ③	A		✓◆		B	✓		◆	C		✓◆		D		✓	◆
	ステップ①	ステップ②	ステップ③																			
A		✓◆																				
B	✓		◆																			
C		✓◆																				
D		✓	◆																			

低学年の児童に、自分たちで話し合いの順序や話題を決めさせるのは、少し不安もあったけれど、思いの外、適切に決定・選択ができることに驚いたよ（**l**）。手立てを講じた上で、児童に委ねることも、学びの深まりにつながるんだね（**w'**）。

次の単元からも、学習課題はもっと具体的に示す**h'**の手立てを取り入れていくことで、観点Aのステップアップができるといいな。

